

YMCA

K U M A M O T O

NEWS

YMCA February 2011
vol.465

2

基本聖句 喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい
(ローマの信徒への手紙第12章15節)

熊本YMCAの使命
共に生きる社会 地球環境の保全 生涯学習の推進
ウエルネス活動 ボランティア活動 平和な世界

■ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp
■ブログ kumamoto-ymca.wablog.com
■メールマガジン登録
www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi



●発行所／(財)熊本YMCA／〒860-8739熊本市新町1-3-8 TEL096-353-6397代
●編集人／堤 雄二 ●発行人／堤 弘雄 2011年2月1日発行(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可 定価60円(送料60円)

CONTENTS

- 1・2 市民クリスマス講演の夕べ
潮谷義子講演会
- 2 ながみねファミリー YMCA「防災を考える日」
- 3 YMCA学院 成人を祝う会/生涯学習セミナー
アガペNo.59「本当の豊かさとは」
event report
あそカウントダウンキャンプ/日本語科お正月体験
- 4 Message カナダへ語学留学 田上愛己さん
YMCA NETWORK (地域YMCA情報)
水前寺幼稚園/阿蘇YMCA/リフレスおむた

一人ひとりが祈り、行動する役割を担う いのちにより添う生き方を

昨年12月、子ども・自然・いのちをテーマに開催された、「市民クリスマス講演の夕べ」。熊本県知事の時代から、常に小さな者、弱い者の命により添ってこられた潮谷義子さんに、「いのちにより添う」と題し、今の社会の中で、他者の命の尊厳を考え、「愛のわざ」をなすことの重みについてお話をいただきました。

偉大な働きをして生まれた、 素晴らしい存在

長崎国際大学学長に就任して出会った薬学部
のクリスチャンの先生から、私は日曜日ごとに、「私の教会に一緒に行きましょう」と誘っていただきました。しかし教会は遠方であって一度も伺えないうち、先生は突然天に召されました。先生を偲ぶ会で、教会に行かなかった後悔の念をお話した私に、先生の奥様から、「命により添ってくださる方が私たちの周りにいたということ、夫はしっかりと受け止めて天に召されたのです」と、気丈なご挨拶をいただきました。
今、私たちは自分の命を含め、命により添えない人たちが増えたと実感しています。私たちの周辺で悩み苦しみ、自ら命を絶つ人は年間3万人を超え、その状態は12年も続いています。
映画「育子からの手紙」をご存知でしょうか。骨肉腫と闘う一人の少女を、同室の婦人が支え続けた姿が描かれています。婦人は、自身の退院後も手紙や面会を通して育子を励まし続け、育



子の家族にも温かい目を向けました。大学でもこの映画を上映した時、学生の感想には「死に立ち向かうのを想像したことがなかった」「育子により添った一人の女性を通して、私にもできることがあると学んだ」などとありました。事件や災害など、突然命を絶たれるような出来事が起こると、「どうすればこのような出来事が社会からなくなるのだろうか」と思いあぐねたり、手をこまねいたりすることがしばしばあります。
2010年、マザー・テレサ生誕100年の時を迎えました。生涯を通して命、病により添い、「愛のわざ」に生きた方です。マザー・テレサは「無関心、無視ほどつらく、酷なことはない」と

わたしと聖句

詩編第119編105節

あなたの御言葉は、わたしの道の光
わたしの歩みを照らす灯。

御言葉は、わたしの道の光

聖書の言葉は、人の魂を生かす神の御言葉です。主イエスは、「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と語られました。私も、主イエスキリストを

信じて、神の御言葉によって生かされてきたことを思います。わたしは、学生時代の勉強はあまり好きではありませんでした。興味のある本を読んだりすることは好きでしたが、授業中は、いつも早く授業が終わらないかなと思っていました。そのような私でしたが、聖書を読み始めて、聖書をもっと学びたいという思いや、聖書の真理を悟りたいという思いはなくなるから不思議です。主を信じ、聖書を読むようになり、それを毎日の生活の中に適用して実践すること、難しいことやとてもできそうにないと思うこ

とも、それを通して信仰生活の学びとなり、それをどのようにして乗り越えてゆくか、どのようにして主を信じて歩むことができるかを考えさせられるのです。しかし、そのような聖書の学びは、時間がかかるといっても思われません。一朝一夕では、そういう生活はできません。自分でも気づかないくらい、ゆっくりとでなければ、進みません。でも、聖書の言葉は、確かな私の道の光です。

日本バプテスト連盟人吉キリスト教会

永淵 一隆

の装置を、自分で生きるために一つずつ切り替える偉大な仕事をやり遂げました。辛い言葉を耳にした時には、自分は偉大な働きをしてこの世に送り出された偉大な一人であり、素晴らしい存在であることを忘れないでほしい」。

あるがままの命を愛し、 仕え続けること

北ドイツに、ベテルという小さな村があります。身体・知的障がいのある人を支える人々が住む村です。第二次世界大戦時、ヒトラーはベテルの街に、「優秀な医師や看護師、ケアワーカーは、障がいのある子のために働くより、戦争の中でその能力を活かす方が大きな価値がある」と命令しました。ベテルで働く多くの人々の返事は、「この人たちが安楽死させる前に、私たちが殺してください。障がいのある人が死ななくてはいけないのなら、私たちも共に」でした。障がいがあっても、そこに命が存在していることこそ価値があることなのです。(2面へ続く)



潮谷義子さん
佐賀県生まれ。日本社会事業大学卒業。佐賀県・大分県・熊本県福祉主事。慈愛園乳児ホーム園長を務めた後、1999年に熊本県副知事に就任。2009年4月より長崎国際大学学長。